

CLUSTERPRO **MC ProcessSaver 1.0 for Windows**

メッセージ 一覧

© 2012(Sep) NEC Corporation

- ☐ はじめに
- ☐ メッセージ一覧
- ☐ 障害解析情報の収集

改版履歴

版数	改版	内容
1	2012.9	新規作成

はしがき

本書では、CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.0 for Windows(以後、ProcessSaver と記載します)が出力するイベントログのメッセージの意味と対処方法について説明します。

(1) 本書は以下のオペレーティングシステムに対応します。

IA32 および x86_64 対応 CPU 搭載サーバ

Microsoft Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition Service Pack 2

Microsoft Windows Server 2003 R2 Standard Edition Service Pack 2

Microsoft Windows Server 2008 Enterprise(Service Pack 2 を含む)

Microsoft Windows Server 2008 Standard(Service Pack 2 を含む)

Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise(Service Pack 1 を含む)

Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard(Service Pack 1 を含む)

(2) 商標および登録商標

- ✓ Microsoft、Windows、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- ✓ Windows Server 2003 の正式名称は、Microsoft Windows Server 2003 Operating System です。
- ✓ Windows Server 2008 の正式名称は、Microsoft Windows Server 2008 です。
- ✓ その他、本書に登場する会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。
- ✓ なお、本書では®、TM マークを明記しておりません。

目次

1.	はじめに.....	1
1.1.	用語の定義.....	1
1.2.	表記規則.....	2
2.	メッセージ一覧.....	3
2.1.	イベントローグ一覧.....	3
2.2.	画面メッセージ一覧.....	9
3.	障害解析情報の収集.....	13
3.1.	障害解析情報収集ツール.....	13
3.1.1.	障害解析情報収集ツール.....	13
3.1.2.	収集される情報の一覧.....	14
3.2.	手動での障害解析情報の収集方法.....	16
3.2.1.	情報保管用フォルダの作成.....	16
3.2.2.	ProcessSaver 構成ファイルの取得.....	16
3.2.3.	イベントローグの取得.....	16
3.2.4.	プロセス情報の取得.....	18
3.2.5.	サービス情報の取得.....	18

1. はじめに

本書は、ProcessSaver が出力するイベントログのメッセージの意味と対処方法について説明します。

1.1.用語の定義

本書での用語について、下記のように定義します。

用語	説明
ProcessSaver コンソール	ProcessSaver の運用管理のための GUI(グラフィカルユーザーインターフェース)画面のことを、ProcessSaver コンソールと表記します。
ProcessSaver サービス	Windows システム上に登録する ProcessSaver のサービスのことを、ProcessSaver サービスと表記します。
Pfile	プロセス／サービスの監視定義情報を記述する設定ファイルのことを、Pfile と表記します。
Pcheck	Pfile で指定された定義情報に基づき、プロセス／サービスの消滅監視および再開を行うプロセスのことを、Pcheck と表記します。
再起動スクリプト	監視対象プロセス／サービスの消滅を検知した場合に、監視対象プロセス／サービスを自動的に再起動するためのコマンド処理を記述したファイルのことを、再起動スクリプトと表記します。
RetryOverAction	監視対象プロセスの消滅を検知した際に再起動スクリプトにより、一定回数リトライしても再開できない場合、対象プロセスに対して実行されるさまざまな後処理のことを、RetryOverAction と表記します。
RetryCount	監視対象プロセス／サービスの消滅を検知し、再起動スクリプトを実行した回数のことを、RetryCount と表記します。
PcheckRunList	OS 起動時に自動的に監視を開始するための Pcheck の起動リストです。 監視を行う Pfile の一覧が記述されています。
インストールフォルダ	ProcessSaver をインストールしたフォルダです。 本資料では、<C:¥Program Files> にインストールしたことにします。 OS により、インストールフォルダのデフォルトは変更されます。 32bit OS : <C:¥Program Files > 64bit OS : <C:¥Program Files(x86) >

1.2. 表記規則

本書での表記規則について、下記のように定義します。

記号表記	使用方法	例
『』	画面名の前後	『Create Pfile』は、Pfile を作成する画面です。
「」	参照するマニュアル名の前後 参照する章および章のタイトル名の前後	「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.0 for Windwos インストールガイド」を参照してください。 「2. メッセージ一覧」を参照してください。
【】	ファイル名およびフォルダ名の前後	【インストールフォルダ】¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥【Pfile 名】
[]	項目名の前後 タブ名の前後	[ProcessSaver Console] を選択してください。 [Create Pfile] タブを選択してください。
太字	機能名	MsgCheckInterval を設定してください。
斜体、太字	ボタン名 チェックボックス名	OK を押してください。 LocalUser にチェックしてください。

2. メッセージ一覧

2.1. イベントログ一覧

※ イベントログ一覧 [説明(対処)] の () 内については、お客様ご自身にて対応して頂く内容を記述しています。

メッセージ ID	種類	メッセージ	説明 (対処)
PS02E003	Error	プロセス間通信でエラー ({xxx})。	プロセス間通信にてエラーが発生しました。 自動再開します。
PS02E008	Error	DumpFile の作成に失敗しました (DumpFile : {xxx} , Error : {xxx})。	ダンプファイルの作成ができません。 (ディスクの空き容量などを確認してください。)
PS02E009	Error	監視対象プロセス ({xxx}) は下限値を 下回っています。 (下限値 : {xxx} 現 在 : {xxx})	起動している監視対象プロセス数が MinProcCount にて設定した監視対象プロセ ス数を下回りました。 Pfile の内容にしたがって処理します。
PS02E022	Error	Pcheck は異常終了しました。	Pfile の内容不正および内部エラーにて Pcheck が終了しました。 (Pfile の内容を確認してください。)
PS02E024	Error	Pcheck はすでに起動しています (Pfile : {xxx})。	同じ Pfile を使用して Pcheck は、起動でき ません。
PS02E054	Error	PID 取得に失敗しました。 ({xxx})	Pcheck 起動時に監視対象プロセスが存在し なかったため、PID 取得に失敗しました。 Pfile の内容にしたがって処理します。
PS04E002	Error	ClearCmd のファイル名の最大文字 数は絶対パスで 256 バイトです。	ClearCmd にて設定している文字列のうちフ ァイル名が 256 バイトを超えて設定されてい ます。 (ClearCmd で指定しているファイル名を 256 バイト以下で設定してください。)
PS04E003	Error	ClearCmd の最大文字数は 1024 バイトです。 ({xxx})	ClearCmd にて設定している文字列が 1024 バイトを超えて設定されています。 (ClearCmd を 1024 バイト以下で設定してく ださい。)
PS04E004	Error	DumpFileName の最大文字数は 256 バイトです。 ({xxx})	DumpFileName に設定している文字列が 256 バイトを超えて設定されています。 (DumpFileName を 256 バイト以下で設定 してください。)
PS04E005	Error	Grace の設定範囲は、0～ 31536000 です。 ({xxx})	Grace の設定値が有効値ではありません。 (Grace を 0 ～ 31536000 の範囲内で設 定してください。)
PS04E006	Error	同じグループタグ ({xxx}) を設定して いる Pent の Grace 値 ({xxx}) が違い ます。	グループ監視機能を設定している状態で同一 グループ内の各監視対象の Grace の設定 が統一されていません。 (同一グループ内のすべての監視対象の Grace 値を統一して設定してください。)

メッセージ ID	種類	メッセージ	説明(対処)
PS04E007	Error	同じグループタグ({xxx})を設定している Pent の再起動スクリプト({xxx})が違います。	グループ監視機能を設定している状態で同一グループ内の各監視対象の再起動スクリプトが統一されていません。 (同一グループ内のすべての監視対象の再起動スクリプトを統一して設定してください。)
PS04E008	Error	同じグループタグ({xxx})を設定している Pent の RetryCountMax({xxx})が違います。	グループ監視機能を設定している状態で同一グループ内の各監視対象の RetryCountMax の設定が統一されていません。 (同一グループ内のすべての監視対象の RetryCountMax を統一して設定してください。)
PS04E009	Error	同じグループタグ({xxx})を設定している Pent の RetryOverAction({xxx})が違います。	グループ監視機能を設定している状態で同一グループ内の各監視対象の RetryOverAction の設定が統一されていません。 (同一グループ内のすべての監視対象の RetryOverAction を統一して設定してください。)
PS04E010	Error	GroupTag の最大文字数は 256 バイトです。({xxx})	GroupTag に設定している文字列が 256 バイトを超えて設定されています。 (GroupTag を 256 バイト以下で設定してください。)
PS04E011	Error	GroupTag は数値のみで設定できません。({xxx})	GroupTag に設定している文字列が数値のみで設定されています。 (GroupTag を英字のみ、または英数字を組み合わせた文字列で設定してください。)
PS04E012	Error	IncludeStrings の最大文字数は 1024 バイトです。({xxx})	IncludeStrings に設定している文字列が 1024 バイトを超えて設定されています。 (IncludeStrings を 1024 バイト以下で設定してください。)
PS04E013	Error	MinProcCount の設定範囲は、1 ～ 64 です。({xxx})	MinProcCount の設定値が有効値ではありません。 (MinProcCount を 1 ～ 64 の範囲内で設定してください。)
PS04E014	Error	MonitorInterval の設定範囲は、1 ～ 86400 秒です。({xxx})	MonitorInterval の設定値が有効値ではありません。 (MonitorInterval を 1 ～ 86400 の範囲内で設定してください。)
PS04E015	Error	MonitorInterval({xxx}) は MsgCheckInterval({xxx}) の正の整数倍の値を設定してください。	MonitorInterval の設定値が MsgCheckInterval の正の整数倍では、ありません。 (MonitorInterval を MsgCheckInterval の正の整数倍で設定してください。)

メッセージ ID	種類	メッセージ	説明(対処)
PS04E016	Error	MsgCheckInterval の設定範囲は、1～3600 秒です。({xxx})	MsgCheckInterval の設定値が有効値ではありません。 (MsgCheckInterval を 1 ～ 3600 の範囲で設定してください。)
PS04E017	Error	CheckType を設定してください。({xxx})	CheckType が設定されていません。 (CheckType を設定してください。)
PS04E018	Error	ClearCmd を設定してください。	ClearCmd が設定されていません。 (ClearCmd を設定してください。)
PS04E019	Error	DumpFileName を設定してください。	DumpFileName が設定されていません。 (DumpFileName を設定してください。)
PS04E020	Error	クリアコマンドが存在しません。({xxx})	ClearCmd に設定した実行形式ファイルが存在しません。 (ClearCmd に指定した実行形式ファイルを作成するか、存在する実行形式ファイルを設定してください。)
PS04E021	Error	再起動スクリプトが存在しません。({xxx})	再起動スクリプトに設定した実行形式ファイルが存在しません。 (再起動スクリプトに指定した実行形式ファイルを作成するか、存在する実行形式ファイルを設定してください。)
PS04E023	Error	GroupTag を設定してください。	GroupTag が設定されていません。 (GroupTag を設定してください。)
PS04E024	Error	IncludeStrings を設定してください。	IncludeStrings が設定されていません。 (IncludeStrings を設定してください。)
PS04E026	Error	Pname を設定してください。	Pname が設定されていません。 (Pname を設定してください。)
PS04E028	Error	RetryOverAction を設定してください。({xxx})	RetryOverAction が Continue,Exit,Shutdown 以外で設定されています。 (RetryOverAction を Continue,Exit,Shutdown に設定してください。)
PS04E030	Error	Pname の最大文字数は 1024 バイトです。({xxx})	Pname に設定している文字列が 1024 バイトを超えて設定されています。 (Pname を 1024 バイト以下で設定してください。)
PS04E031	Error	RestartCmd のファイル名の最大文字数は絶対パスで 256 バイトです。	RestartCmd に設定している文字列のうちファイル名が 256 バイトを超えて設定されています。 (RestartCmd で指定しているファイル名を 256 バイト以下で設定してください。)
PS04E032	Error	RestartCmd の最大文字数は 1024 バイトです。({xxx})	RestartCmd に設定している文字列が 1024 バイトを超えて設定されています。 (RestartCmd を 1024 バイト以下で設定してください。)
PS04E033	Error	RestartTimeOut の設定範囲は、1～86400 秒です。({xxx})	RestartTimeOut の設定値が有効値ではありません。 (RestartTimeOut を 1 ～ 86400 の範囲で設定してください。)

メッセージ ID	種類	メッセージ	説明(対処)
PS04E034	Error	RestartWaitTime の設定範囲は、1 ～ 86400 秒です。({xxx})	RestartWaitTime の設定値が有効値ではありません。 (RestartWaitTime を 1 ～ 86400 の範囲で設定してください。)
PS04E035	Error	RetryCountMax の設定範囲は、0 ～ 1024 です。({xxx})	RetryCountMax の設定値が有効値ではありません。 (RetryCountMax を 0 ～ 1024 の範囲で設定してください。)
PS04E036	Error	セパレータ不正で読み込めません。(Line={xxx})	Pfile のフォーマットが違うため Pfile を読み込めません。 (Line={xxx})に表示している行を確認し正しいフォーマットにて設定してください。)
PS04E037	Error	PnameFullMatch を設定してください。({xxx})	PnameFullMatch が設定されていません。 (PnameFullMatch を設定してください。)
PS04E038	Error	1 つ以上の Pent を追加してください。	Pent 部に個別情報部が追加されていません。 (1 つ以上の Pent を追加してください。)
PS04E039	Error	UpMessageReduceMode を設定してください。({xxx})	UpMessageReduceMode が設定されていません。 (UpMessageReduceMode を設定してください。)
PS04E041	Error	Pname の引数の最大文字数は 1024 バイトです。({xxx})	Process/ServiceName の引数に設定している文字列が 1024 バイトを超えて設定されています。 (Process/ServiceName の引数を 1024 バイト以下で設定してください。)
PS04E042	Error	{xxx}にファイル名を正しく指定してください。({xxx})	設定しているファイル名が正しく設定されていません。 (xxx)に設定しているファイル名を確認し正しいファイル名を設定してください。)
PS07E001	Error	再起動スクリプトを強制終了します。({xxx})	再起動スクリプトがタイムアウトしました。 (再起動スクリプトを確認してください。)
PS07E002	Error	(xxx)RETRYOVER:CONTINUE.	監視対象監視対象プロセス／サービスが RetryOver しました。 RetryOver した監視対象プロセス／サービス以外の監視は、継続されます。
PS07E003	Error	(xxx)RETRYOVER:EXIT.	監視対象プロセス／サービスが RetryOver しました。 Pcheck を終了します。
PS07E004	Error	(xxx)RETRYOVER:SHUTDOWN.	監視対象プロセス／サービスが RetryOver しました。 Pcheck を終了します。
PS07E005	Error	クリアコマンドを実行します。({xxx})	クリアコマンドを実行します。
PS07E006	Error	再起動スクリプトを実行します。 (xxx)	再起動スクリプトを実行します。

メッセージ ID	種類	メッセージ	説明(対処)
PS08E006	Error	次のログを出力することができませんでした。環境を確認してください。({xxx})	{xxx}のメッセージをオペレーションログもしくはトレースログのファイルへ出力することができませんでした。 (ディスクの空き容量など環境を確認してください。)
PS02W005	Warning	プロセス間通信用スレッドが停止したので、再起動します。	プロセス間通信用スレッドを再起動します。
PS02W006	Warning	ダンプファイルを別名で作成します。({xxx})	何らかの問題でダンプファイルの世代管理ができませんでした。 {xxx}にてダンプファイルを作成します。
PS02W013	Warning	MsgCheckInterval が MonitorInterval より大きいため MsgCheckInterval を MonitorInterval({xxx})に MonitorTryCount を{xxx}に設定します。	Pfile に設定した MsgCheckInterval が MonitorInterval より大きい値を設定しています。 正常に監視を行うために MsgCheckInterval を MonitorInterval と同じ値で監視を行います。
PS02W015	Warning	変更した MsgCheckInterval が MonitorInterval より大きいため MsgCheckInterval を MonitorInterval({xxx})に設定します。	ChangeInterval にて MsgCheckInterval を動的に変更しようとしたときに MsgCheckInterval が MonitorInterval より大きい値を設定しています。 正常に監視を行うために MsgCheckInterval を MonitorInterval と同じ値に変更し監視を行います。
PS02W017	Warning	MsgCheckInterval が変更した MonitorInterval より大きいため MonitorInterval を MsgCheckInterval({xxx})に設定します。	ChangeInterval にて MonitorInterval を動的に変更しようとしたときに MonitorInterval が MsgCheckInterval より小さな値を設定しています。 正常に監視を行うために MonitorInterval を MsgCheckInterval と同じ値に変更し監視を行います。
PS02W020	Warning	MonitorInterval が MsgCheckInterval の整数倍でないため MonitorTryCount を{xxx}に設定します。	ChangeInterval にて MsgCheckInterval および MonitorInterval を動的に変更しようとしたときに MonitorInterval が MsgCheckInterval の正の整数倍以外の値を設定しています。 正常に監視を行うために MonitorInterval を MsgCheckInterval の整数倍に丸めて監視を行います。
PS02W036	Warning	監視対象プロセス ({xxx}, pid={xxx}) の消滅を検知しました。	監視対象プロセスの消滅を検知しました。 Pfile の内容にしたがって処理します。
PS02W044	Warning	監視対象サービス({xxx})の停止を検知しました。	監視対象サービスの停止を検知しました。 Pfile の内容にしたがって処理します。
PS06W001	Warning	PID({xxx})・プロセス名({xxx})共に前回監視チェック時と同様の為消滅検知とせず通常監視を継続します。	監視対象プロセスの存在チェック時に PID・プロセス名は、一致するがプロセス起動時間が違っていた場合に監視対象プロセスの消滅検知とせず通常監視を継続します。

メッセージ ID	種類	メッセージ	説明(対処)
PS07W005	Warning	クリアコマンドを実行します。({xxx})	クリアコマンドを実行します。
PS07W006	Warning	監視対象プロセスを再起動します。({xxx})	監視対象を再起動するために再起動スクリプトを実行します。
PS08W001	Warning	ログファイルのファイルサイズの設定範囲は、1KB～50000KB です。ファイルサイズを 1024KB としてログを出力します。	ログファイルのファイルサイズの設定値が有効値ではありません。 正常にログを出力するためにひとつのログファイルのファイルサイズが 1024 KB を超えるまでログを出力します。
PS08W002	Warning	ログファイルのファイル数の設定範囲は、1～10 です。ファイル数を 2 としてログを出力します。	ログファイルのファイル数の設定値が有効値ではありません。 正常にログを出力するためにログファイルの 2 世代の世代管理を行います。
PS08W003	Warning	ログファイルの設定ファイルから値を取得できませんでした。ファイルサイズを 1024KB、ファイル数を 2 としてログを出力します。	ログファイルの設定ファイルから値を取得できませんでした。 正常にログを出力するためにひとつのログファイルのファイルサイズが 1024 KB を超えるまでログを出力します。また、ログファイルの 2 世代の世代管理を行います。
PS08W004	Warning	ログファイルの世代管理に失敗しました。{xxx}.log を{xxx}.log.err ファイルへ退避しました。	ログファイルの世代管理を正常に行うことができませんでした。 ファイル名が{xxx}.log のログファイルをファイル名が{xxx}.log.err へ退避しました。
PS08W005	Warning	ログファイルの世代管理に失敗しました。設定のファイルサイズを超えてログを出力しました。	ログファイルの世代管理を正常に行うことができませんでした。 設定ファイルに設定されているログファイルサイズの値を超えて、ログを出力しました。
PS02I010	Information	監視対象プロセス({xxx})は下限値に達しています。(下限値:{xxx} 現在:{xxx})	監視対象プロセス数が MinProcCount にて設定した監視対象プロセス数に達しました。
PS02I014	Information	MsgCheckInterval の値を{xxx}に変更します。	MsgCheckInterval の設定値に問題がありますが、{xxx}に変更し監視を開始します。
PS02I016	Information	MonitorInterval の値を{xxx}に変更します。	MonitorInterval の設定値に問題がありますが、{xxx}に変更し監視を開始します。
PS02I037	Information	監視対象プロセス({xxx} Pid: {xxx})は稼動状態です。	監視対象プロセスの監視を開始しました。
PS02I045	Information	監視対象サービス({xxx})は開始状態です。	監視対象サービスの監視を開始しました。
PS02I052	Information	Pcheck の稼動状態です。(Pent 総数:{xxx} 起動したプロセス／サービス数:{xxx}) Pfile={xxx}	Pfile に記載された監視対象プロセス／サービス数のうち起動したプロセス／サービス数の監視対象プロセス／サービスが起動しています。

2.2.画面メッセージ一覧

※ 画面メッセージ一覧 [説明(対処)] の()内については、お客様ご自身にて対応して頂く内容を記述しています。

メッセージ ID	種類	メッセージ	説明(対処)
PS04E001	Error	{xxx}にファイル名として使用できない文字が指定されています。	設定しているファイル名に禁則文字が含まれています。 (禁則文字を削除してファイル名を設定してください。)
PS04E003	Error	ClearCmd の最大文字数は 1024 バイトです。({xxx})	ClearCmd に設定している文字列が 1024 バイトを超えて設定されています。 (ClearCmd を 1024 バイト以下で設定してください。)
PS04E004	Error	DumpFileName の最大文字数は 256 バイトです。({xxx})	DumpFileName に設定している文字列が 256 バイトを超えて設定されています。 (DumpFileName を 256 バイト以下で設定してください。)
PS04E005	Error	Grace の設定範囲は、0～31536000 です。({xxx})	Grace の設定値が有効値ではありません。 (Grace を 0 ～ 31536000 の範囲内で設定してください。)
PS04E011	Error	GroupTag は数値のみで設定できません。({xxx})	GroupTag に設定している文字列が数値のみで設定されています。 (GroupTag を英字のみ、または英数字を組み合わせた文字列で設定してください。)
PS04E012	Error	IncludeStrings の最大文字数は 1024 バイトです。({xxx})	IncludeStrings に設定している文字列が 1024 バイトを超えて設定されています。 (IncludeStrings を 1024 バイト以下で設定してください。)
PS04E013	Error	MinProcCount の設定範囲は、1～64 です。({xxx})	MinProcCount の設定値が有効値ではありません。 (MinProcCount を 1 ～ 64 の範囲内で設定してください。)
PS04E014	Error	MonitorInterval の設定範囲は、1～86400 秒です。({xxx})	MonitorInterval の設定値が有効値ではありません。 (MonitorInterval を 1 ～ 86400 の範囲内で設定してください。)
PS04E015	Error	MonitorInterval({xxx}) は MsgCheckInterval({xxx}) の正の整数倍の値を設定してください。	MonitorInterval の設定値が MsgCheckInterval の正の整数倍ではありません。 (MonitorInterval を MsgCheckInterval の正の整数倍で設定してください。)
PS04E016	Error	MsgCheckInterval の設定範囲は、1～3600 秒です。({xxx})	MsgCheckInterval の設定値が有効値ではありません。 (MsgCheckInterval を 1 ～ 3600 の範囲で設定してください。)

メッセージ ID	種類	メッセージ	説明(対処)
PS04E019	Error	DumpFileName を設定してください。	DumpFileName が設定されていません。 (DumpFileName を設定してください。)
PS04E020	Error	クリアコマンドが存在しません。 (xxx)	ClearCmd に設定した実行形式ファイルが存在しません。 (ClearCmd に指定した実行形式ファイルを作成するか、存在する実行形式ファイルを設定してください。)
PS04E021	Error	再起動スクリプトが存在しません。 (xxx)	再起動スクリプトに設定した実行形式ファイルが存在しません。 (再起動スクリプトに指定した実行形式ファイルを作成するか、存在する実行形式ファイルを設定してください。)
PS04E028	Error	RetryOverAction を設定してください。(xxx)	RetryOverAction が Continue,Exit,Shutdown 以外で設定されています。 (RetryOverAction を Continue,Exit,Shutdown に設定してください。)
PS04E032	Error	RestartCmd の最大文字数は 1024 バイトです。(xxx)	RestartCmd に設定している文字列が 1024 バイトを超えて設定されています。 (RestartCmd を 1024 バイト以下で設定してください。)
PS04E033	Error	RestartTimeOut の設定範囲は、1 ～ 86400 秒です。(xxx)	RestartTimeOut の設定値が有効値ではありません。 (RestartTimeOut を 1 ～ 86400 の範囲で設定してください。)
PS04E034	Error	RestartWaitTime の設定範囲は、1 ～ 86400 秒です。(xxx)	RestartWaitTime の設定値が有効値ではありません。 (RestartWaitTime を 1 ～ 86400 の範囲で設定してください。)
PS04E035	Error	RetryCountMax の設定範囲は、0 ～ 1024 です。(xxx)	RetryCountMax の設定値が有効値ではありません。 (RetryCountMax を 0 ～ 1024 の範囲で設定してください。)
PS04E036	Error	セパレータ不正で読み込めません。(Line=xxx)	Pfile のフォーマットが違うため Pfile を読み込めません。 (Line=xxx)に表示している行を確認し正しいフォーマットにて設定してください。)
PS04E037	Error	PnameFullMatch を設定してください。(xxx)	PnameFullMatch が設定されていません。 (PnameFullMatch を設定してください。)
PS04E038	Error	1 つ以上の Pent を追加してください。	Pent 部に個別情報部が追加されていません。 (1 つ以上の Pent を追加してください。)
PS04E039	Error	UpMessageReduceMode を設定してください。(xxx)	UpMessageReduceMode が設定されていません。 (UpMessageReduceMode を設定してください。)
PS04E040	Error	IncludeStrings にセパレータ文字のみの設定はできません。	IncludeStrings にセパレータ文字のみが設定されています。 (コマンド引数を設定してください。)

メッセージ ID	種類	メッセージ	説明(対処)
PS04E041	Error	Pname の引数の最大文字数は 1024 バイトです。({xxx})	Process/ServiceName の引数に設定している文字列が 1024 バイトを超えて設定されています。 (Process/ServiceName の引数を 1024 バイト以下で設定してください。)
PS04E042	Error	{xxx}にファイル名を正しく指定してください。({xxx})	設定しているファイル名が正しく設定されていません。 ({xxx}に設定しているファイル名を確認し正しいファイル名を設定してください。)
PS05E001	Error	{xxx}にファイル名として使用できない文字が指定されています。	設定値のファイル名に禁則文字が含まれています。 (禁則文字を除いてファイル名を指定してください。)
PS05E002	Error	ClearCmd のファイル名の最大文字数は絶対パスで 256 バイトです。	ClearCmd に設定している文字列のうちファイル名が 256 バイトを超えて設定されています。 (ClearCmd で指定しているファイル名を 256 バイト以下で設定してください。)
PS05E004	Error	ProcessSaverConsole はすでに起動しています。	ProcessSaver コンソールは、重複起動できません。
PS05E008	Error	DumpFileName の最大文字数は 256 バイトです。({xxx})	DumpFileName に設定している文字列が 256 バイトを超えて設定されています。 (DumpFileName を 256 バイト以下で設定してください。)
PS05E010	Error	Pent 部でエラー又は警告があります。	Pfile の Pent 部に問題があります。 (画面の内容にしたがって修正してください。)
PS05E011	Error	Pfile の作成に失敗しました。	指定したフォルダのあるドライブに空き容量がないなど、システムに何らかの問題があり Pfile を保存できません。 (システムを確認してください。)
PS05E014	Error	WaitTime を設定してください。	WaitTime が設定されていません。 (WaitTime を設定してください。)
PS05E017	Error	Pfile の読込に失敗しました。 Pfile={xxx}	Pfile が破損しているなどの問題で Pfile を読み込めません。 (Pfile を確認してください。)
PS05E018	Error	MonitorInterval の設定範囲は、1 ～ 86400 秒です。	MonitorInterval の設定値が有効値ではありません。 (MonitorInterval を 1 ～ 86400 の範囲で設定してください。)
PS05E019	Error	MsgCheckInterval の設定範囲は、1 ～ 3600 秒です。	MsgCheckInterval の設定値が有効値ではありません。 (MsgCheckInterval を 1 ～ 3600 の範囲で設定してください。)
PS05E023	Error	Pfile が存在しません。	指定した Pfile が存在しません。
PS05E024	Error	Pfile を指定してください。	Pfile が指定されていません。
PS05E025	Error	Pcheck はすでに起動しています。	同じ Pfile を使用して Pcheck は、起動できません。

メッセージ ID	種類	メッセージ	説明(対処)
PS05E030	Error	PcheckRunList に既に Pfile が存在します。	PcheckRunList は、Pfile を重複して登録することはできません。
PS05E036	Error	Pfile にエラーがあります。({xxx})	指定した Pfile に問題があります。 (Pfile を確認してください。)
PS05E037	Error	Pfile の最大文字数は 200 バイトです。({xxx})	Pfile の指定値が 200 バイトを超えて設定されています。 (Pfile を 200 バイト以下で指定してください。)
PS05E040	Error	RestartCmd のファイル名の最大文字数は絶対パスで 256 バイトです。	RestartCmd に設定している文字列のうちファイル名が 256 バイトを超えて設定されています。 (RestartCmd で指定しているファイル名を 256 バイト以下で設定してください。)
PS05E042	Error	HA ProcessSaver サービスの起動状態を確認してください。	HA ProcessSaver サービスが起動していません。 (HA ProcessSaver サービスを起動させ再実行してください。)
PS05E047	Error	WaitTime の設定範囲は、1～86400 秒です。	WaitTime の設定値が有効値ではありません。 (WaitTime を 1 ～ 86400 の範囲で設定してください。)
PS05E048	Error	Pfile が存在しません。Pfile の確認を行ってください。({xxx})	起動している Pcheck で使用されている Pfile が存在しません。 (起動している Pcheck で使用している Pfile の存在を確認してください。)
PS05E049	Error	Pcheck は実行されていません。 (Pfile: {xxx})	指定された Pfile を使用している Pcheck が起動していない状態で管理コマンドが発行されました。 (起動している Pcheck で使用している Pfile を指定してください。)
PS05E050	Error	指定された PentID もしくは GroupTag が存在しません。(指定値: {xxx})	存在しない PentID もしくは GroupTag が指定されています。 (PentID もしくは GroupTag を確認してください。)
PS04W027	Warning	RestartCmd を設定してください。	RestartCmd が設定されていません。 (消滅監視のみを行う場合は、そのままでも構いません。監視対象の再起動を行う場合は、RestartCmd を設定してください。)
PS05E051	Warning	他の Pcheck のオペレーション画面が、すでに表示されています。	PcheckOperation コンソールは、重複起動できません。 (起動している PcheckOperation 画面を終了してから起動してください。)
PS05I003	Information	コマンド受付状態です。(Pfile: {xxx})	すでにステータスの変更予約が行われています。 (ステータスの変更が行われてから再実行してください。)

3. 障害解析情報の収集

ProcessSaver 運用中に何らかの障害が発生した場合は、下記の 2 つの方法のいずれかの方法で情報採取を行ってください。

3.1. 障害解析情報収集ツール

障害解析情報収集ツールを実行することにより、自動的に必要な情報を収集し圧縮ファイルが作成されます。このツールが正常に動作しない場合は、手動にて必要な情報を収集してください。手動での手順については、「3.2. 手動での障害解析情報の収集方法」を参照してください。

3.1.1. 障害解析情報収集ツール

障害解析情報収集ツールでは、作業用フォルダ（【インストールフォルダ】¥HA¥ProcessSaver¥PS-【サーバ名】）を一時的に作成し、収集途中のファイルが保持されます。

作業用フォルダは、情報の収集および、ファイルの圧縮が正常に終了すると削除されます。

ただし、収集した情報ファイルを圧縮しない場合や、情報の収集に失敗した場合は削除されません。

障害解析情報収集ツール実行時に作業用フォルダが存在する場合は、作業用フォルダの削除確認をします。

削除する場合は、収集処理を開始し、削除しない場合は、障害解析情報収集ツールを終了します。

実行内容が Log ファイル（【作業用フォルダ】¥PSCollect.log）へ出力されます。

ツール実行中にエラーが発生した場合は、Log ファイルを確認してください。

【実行方法】

収集した情報の圧縮ファイルの指定方法により 3 つの実行方法があります。

下記のコマンドのいずれかを実行し情報採取を行ってください。

① 通常実行の場合

デフォルトの圧縮ファイル名は次のとおりです。

【インストールフォルダ】¥HA¥ProcessSaver¥PS-【サーバ名】yyyymmdd.cab

コマンド：【インストールフォルダ】¥HA¥ProcessSaver¥bin¥PSCollect.exe

② 圧縮ファイル名を指定して実行する場合

-o オプションを付加し圧縮ファイル名を指定し実行してください。

圧縮ファイル名は絶対パスで拡張子を除いて指定してください。

自動で拡張子 cab が付加されます。

コマンド：

【インストールフォルダ】¥HA¥ProcessSaver¥bin¥PSCollect.exe -o 【圧縮ファイル名】

③ 圧縮ファイルを作成しない場合

-u オプションを付加して実行してください。

収集した情報は、作業用フォルダに保存されます。

コマンド：【インストールフォルダ】¥HA¥ProcessSaver¥bin¥PSCollect.exe -u

3.1.2. 収集される情報の一覧

障害解析情報収集ツールを実行すると以下の情報が収集され、各ファイルが作成されます。

① ProcessSaver 構成ファイル

下記のフォルダを作業用フォルダへコピーします。

- ・【インストールフォルダ】¥HA¥ProcessSaver¥log
- ・【インストールフォルダ】¥HA¥ProcessSaver¥pfile
- ・【インストールフォルダ】¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile
- ・【インストールフォルダ】¥HA¥ProcessSaver¥config
- ・【インストールフォルダ】¥HA¥ProcessSaver¥bin

② ProcessSaver のレジストリ情報

ProcessSaver で使用しているレジストリの情報を取得します。

- ・出力ファイル名 : PS-reg.txt

【ファイル内容】

- ProcessSaver インストールパス
- ProcessSaver バージョン

③ イベントログ

アプリケーションログとシステムログを取得します。

- ・出力ファイル名 : AppEvent.evtx

【ファイル内容】

- アプリケーションログ

- ・出力ファイル名 : SysEvent.evtx

【ファイル内容】

- システムログ

④ プロセスに関する情報

起動している全プロセスの情報を取得します。

- ・出力ファイル名 : Process-list.txt

【ファイル内容】

- イメージ名
- PID
- セッション番号
- メモリ使用量
- ユーザー名
- CPU 時間
- ウィンドウタイトル
- サービス名

⑤ サービスに関する情報

システムに登録されている全サービスの情報を取得します。

・出力ファイル名 : Service-list.txt

【ファイル内容】

- サービス名
- 表示名
- PID
- サービスタイプ
- 状態
- 終了コード
- サービス終了コード
- CheckPoint
- WaitHint

⑥ リソースに関する情報

システムリソース情報を取得します。

・出力ファイル名 : Resource.txt

【ファイル内容】

- OS バージョン
- 適用している最新のサービスパックの名称
- CPU 使用率
- ハンドル数
- スレッド数
- プロセス数
- コミットチャージ合計
- コミットチャージ制限値
- 物理メモリ合計
- 物理メモリ利用可能値
- カーネルメモリ 合計
- カーネルメモリ ページ
- カーネルメモリ 非ページ

3.2. 手動での障害解析情報の収集方法

障害解析情報収集ツールが正常に動作しない場合は、下記の手順にしたがって情報採取を行ってください。
圧縮ツールなどを使用して収集したファイルを圧縮してください。

以下に示す情報を収集してください。

- ・ ProcessSaver 構成ファイル
- ・ イベントログ
- ・ プロセス情報
- ・ サービス情報

3.2.1. 情報保管用フォルダの作成

収集した情報を一時的に保管するフォルダを作成してください。

3.2.2. ProcessSaver 構成ファイルの取得

下記のフォルダを「3.2.1.情報保管用フォルダの作成」にて作成したフォルダにコピーしてください。

- ・【インストールフォルダ】¥H¥ProcessSaver¥bin
- ・【インストールフォルダ】¥H¥ProcessSaver¥log
- ・【インストールフォルダ】¥H¥ProcessSaver¥pfile
- ・【インストールフォルダ】¥H¥ProcessSaver¥scriptfile
- ・【インストールフォルダ】¥H¥ProcessSaver¥config

3.2.3. イベントログの取得

手順にしたがって下記のイベントログをそれぞれ取得してください。

- ・アプリケーションログ
- ・システムログ

- (1) スタートメニューから [管理ツール] → [イベントビューア] を選択してください。

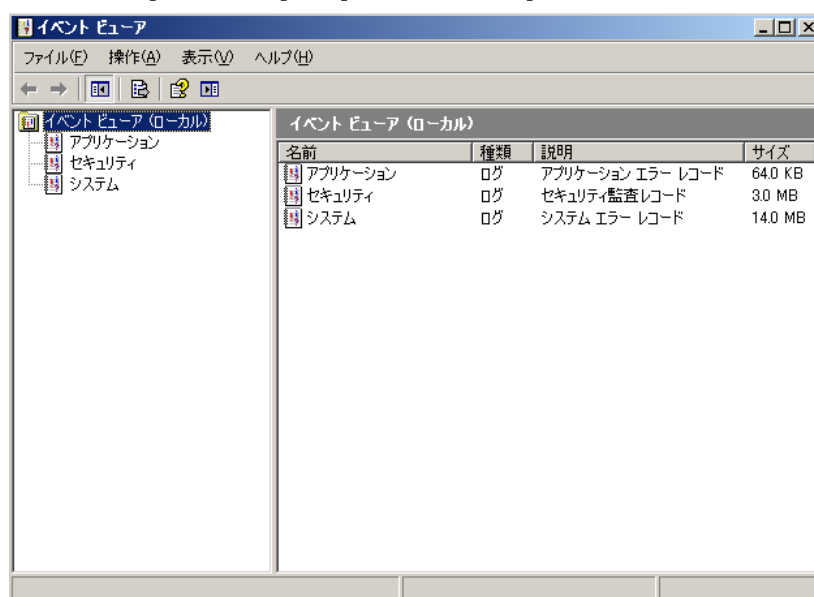


図 15 『イベントビューア』

- (2) アプリケーション(システム)を選択してください。
- (3) アプリケーション(システム)を選択した状態で [操作(A)] を押して [ログファイルの名前をつけて保存(A)] を押してください。

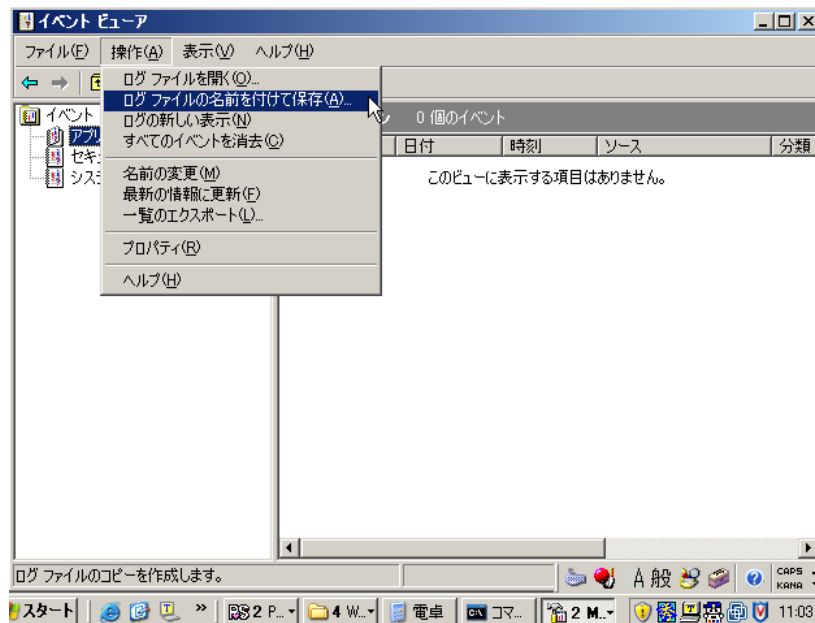


図 16 『イベントビューア操作(A)』

- (4) ファイル名を指定してファイルを保存してください。
下記のファイル名で「3.2.1. 情報保管用フォルダの作成」にて作成したフォルダに保存してください。

・アプリケーションログ : ApEvent.Evt
・システムログ : SysEvent.Evt

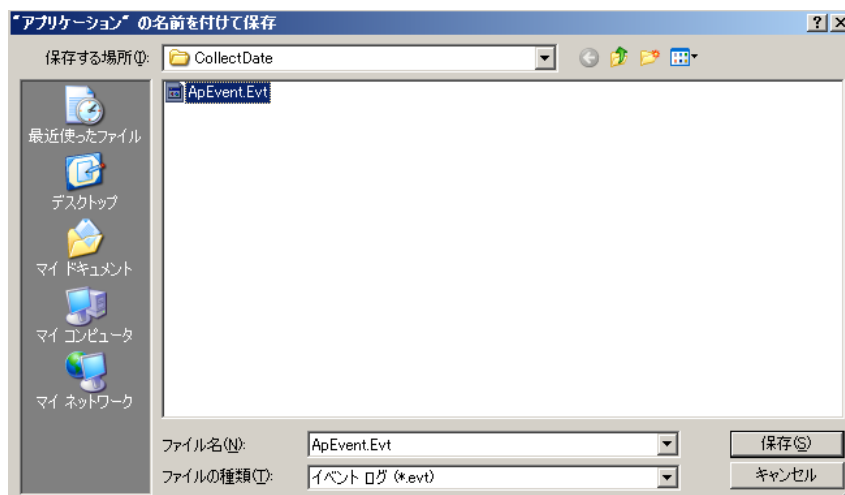


図 17 『ファイル保存』

3.2.4. プロセス情報の取得

Windows 標準コマンドをそれぞれ実行しプロセスに関する情報を取得してください。

- (1) プロセスの起動一覧を下記のコマンドを実行し取得してください。

コマンド : tasklist /V >>【保存先フォルダ】¥tasklist_v.txt

※【保存先フォルダ】は、「3.2.1. 情報保管用フォルダの作成」にて作成したフォルダを指定してください。

《 例 》

```
C:¥>tasklist /V >> "C:¥Program Files¥HA¥CollectDate¥tasklist_v.txt"
```

- (2) プロセスの Windows サービスとの依存関係の一覧を下記のコマンドを実行し取得してください。

コマンド : tasklist /SVC >>【保存先フォルダ】¥tasklist_svc.txt

※【保存先フォルダ】は、「3.2.1. 情報保管用フォルダの作成」にて作成したフォルダを指定してください。

《 例 》

```
C:¥>tasklist /SVC >> "C:¥Program Files¥HA¥CollectDate¥tasklist_svc.txt"
```

3.2.5. サービス情報の取得

Windows 標準コマンドを実行しサービスに関する情報を取得してください。

- (1) サービス一覧を下記のコマンドを実行し取得してください。

コマンド : sc query state= all >>【保存先フォルダ】¥service_list.txt

※【保存先フォルダ】は、「3.2.1. 情報保管用フォルダの作成」にて作成したフォルダを指定してください。

《 例 》

```
C:¥>sc query state= all >> "C:¥Program Files¥HA¥CollectDate¥ service_list.txt"
```

CLUSTERPRO
MC ProcessSaver 1.0 for Windows
メッセージ一覧

2012 年 9 月 第 1 版
日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目 7 番 1 号
TEL (03) 3454-1111(代表)



© NEC Corporation 2012

日本電気株式会社の許可なく複製、改変などを行うことはできません。
本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

保護用紙